

インドネシア共和国南スマトラ州におけるマングローブREDD+プロジェクト

Mangrove REDD+ project in the South Sumatera province, the Republic of Indonesia



山本亮*, 沖元洋介
Akira Yamamoto*, Yosuke Okimoto
株式会社ワイエルインベスト
YL Invest Co., Ltd. Fukuoka, JAPAN



「森は文明の前にあった。その後に砂漠はやってくる。」

(19世紀、フランスの小説家シャトーブリアンの言葉)

弊社は地球温暖化問題の対策及び現地漁民の生活を守るための環境整備を目標に、豊かな生態系を有するマングローブ林を現地住民らと共同で再生する植林活動を目指しています。



代表取締役社長 山本亮

活動を継続させる資金源として、炭素取引のクレジット獲得を目指しています。

マングローブ

熱帯・亜熱帯沿岸域の潮間帯に分布する植物群の総称
約100種の草本・木本植物を含む

- ・熱帯林を凌ぐ炭素固定機能(例、約30 tonCO₂/ha/yr)
- ・「Blue Carbon(ブルーカーボン)」(UENP, 2009)
- ・炭素を貯蔵するカーボンシンクとしての機能が高い

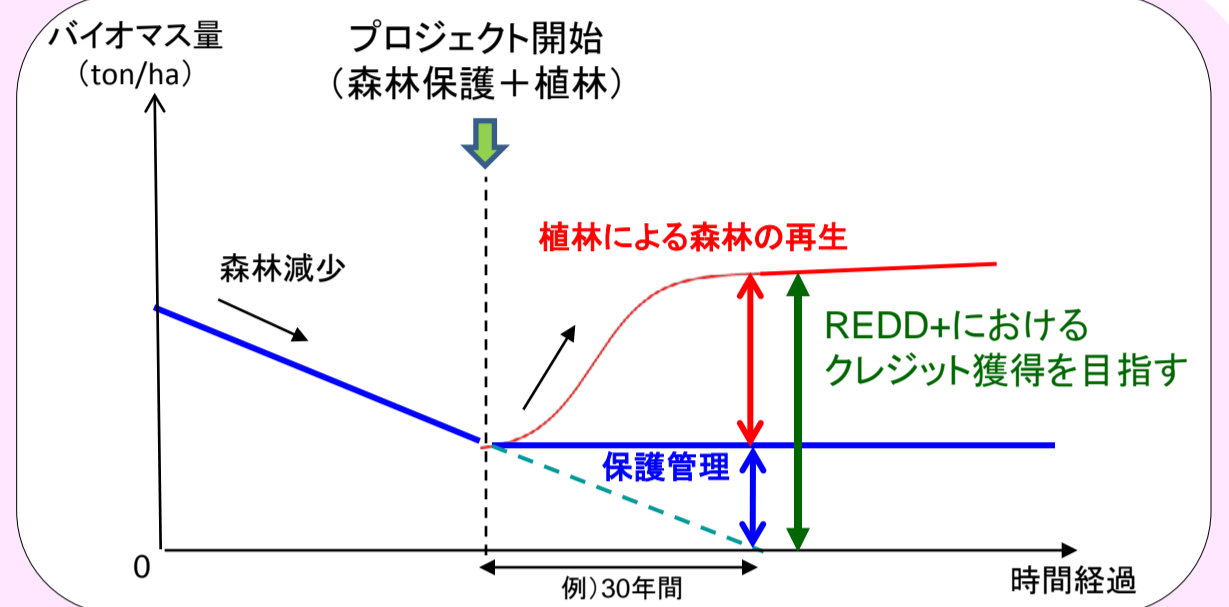
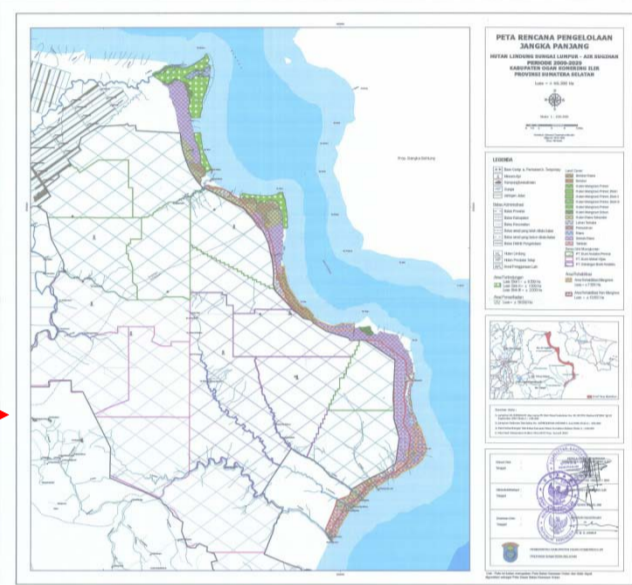
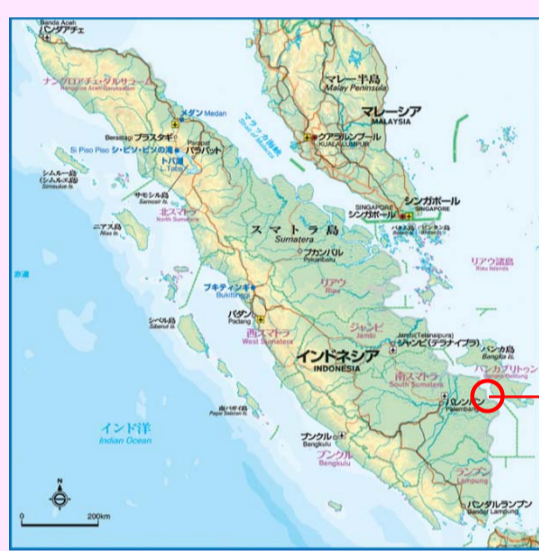
他)高波に対する護岸整備、土壌侵食の防止、生物多様性の確保、涵養機能、生活資源の確保(魚介類、薪材等)etc.

経済産業省による二国間排出クレジットのFS(実現可能性調査)

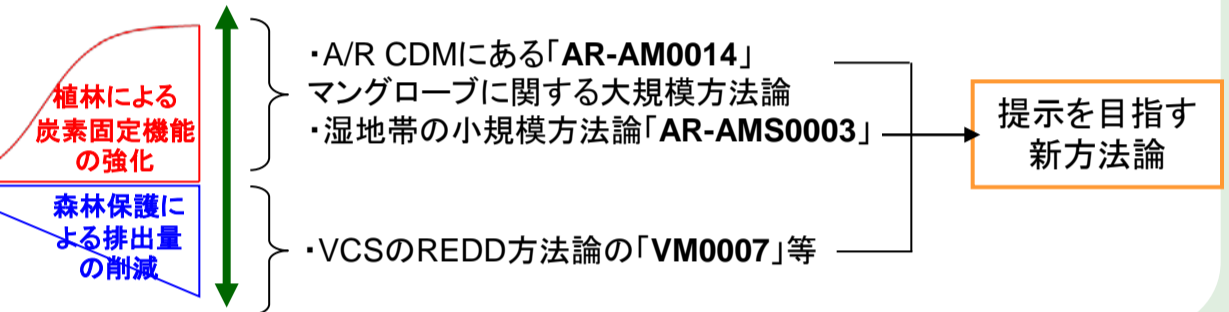
調査地 インドネシア・南スマトラ州
オーガン・コムリン・イリール(OKI)県、行政指定保護林
(約2°23'-3°25' S, 105°33'-106°05' E)

面積 保護対象(23,275 ha)、植林対象(43,225 ha)、合計 66,500 ha

サイト概要 1990年代後半より、周辺住民がマングローブ林を不法伐採。
⇒ 保護林内の森林減少・劣化が著しく進行
(生活資源(薪や建材等)の利用やエビ等の水産養殖池の開発)
現在、保護林の対象となる66,500haの内、65%が荒廃・消失。



新メカニズムに基づくクレジット獲得イメージと参考にする方法論



想定削減量 プロジェクト地 66,500 haを対象
約 2,226万トンCO₂/30年間

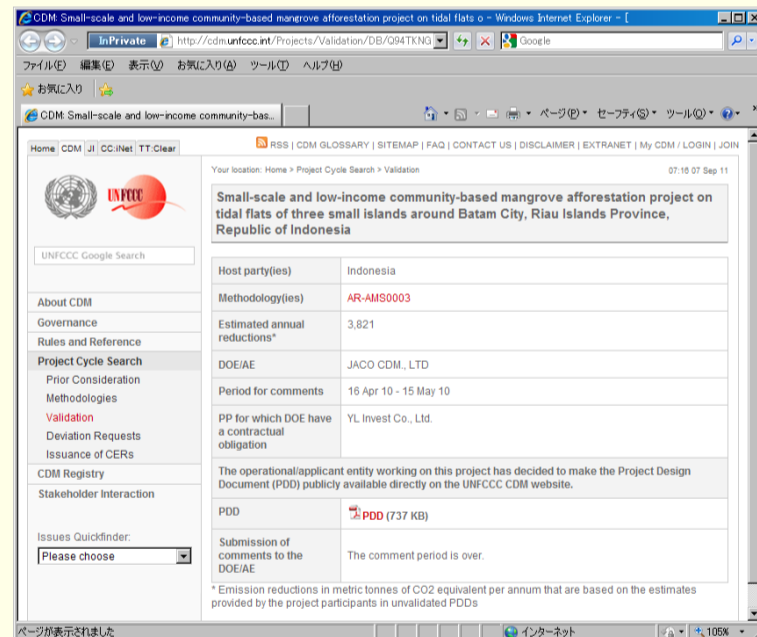
マングローブ植林の実績と10万haの土地利用契約

インドネシアの各地方政府との土地利用契約と
マングローブ植林活動の実績



バタム島 (115 ha)

国連のUNFCCC(気候変動枠組み条約)に対し、
A/R CDM(新規植林/再植林)の新規プロジェクトを申請済



ホスト国:
インドネシア共和国
適用する方法論:
AR-AMS0003
CO₂削減量:
3,821 tCO₂/115 ha/yr
(約10万tCO₂/115 ha/30 yrs)
DOE(認定審査機関)
株式会社 JACO CDM
パブリックコメントの収集:
2010年4月16日-5月15日
DOEとの契約者
株式会社 ワイエルインベスト

トモヨン島 (103 ha)

VCS(Verified Carbon Standard)に対し、新規プロジェクトの申請を準備中

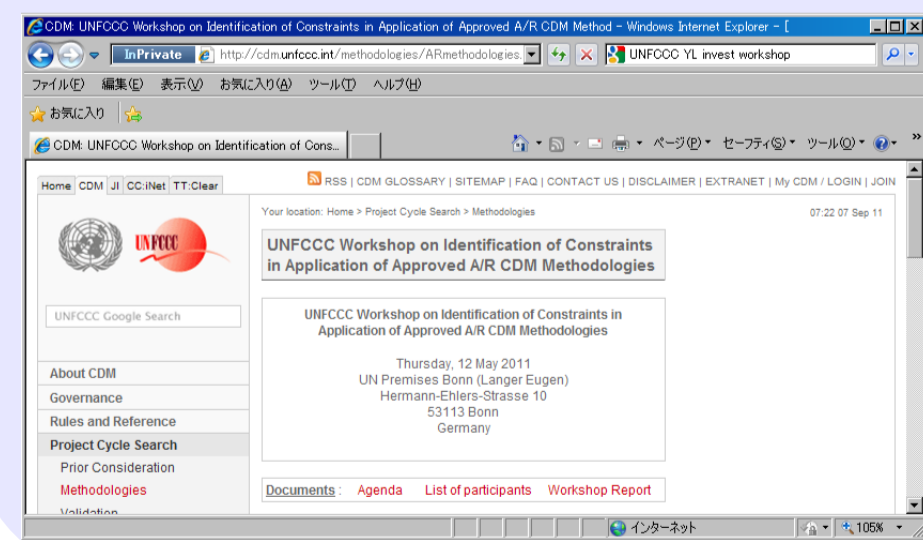


CO₂削減の見込み量 約9万2,500 tCO₂/103 ha/30 yrs

UNFCCC本部のワークショップに招待を受けて参加、活動を発表

UNFCCC Workshop on Identification of Constraints in Application of Approved A/R CDM Methodologies (2011年5月12日に開催)

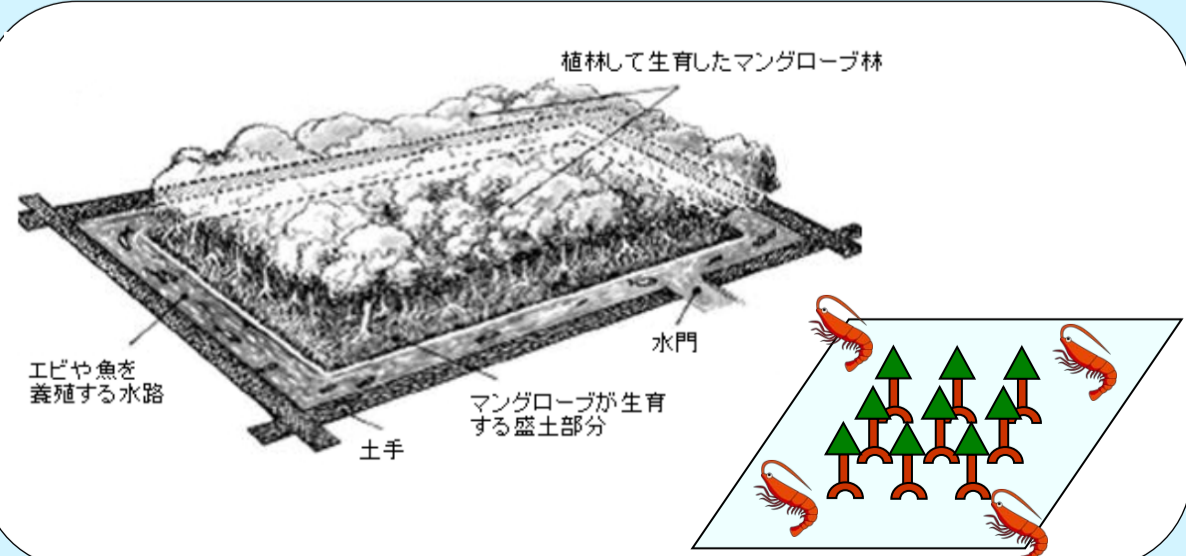
承認されたA/R CDM方法論の利用制限の特定に関するUNFCCCワークショップ



活動内容を発表し、高評価を頂いた

シルボ・フィッシャリー技術を用いた放棄エビ養殖池の再生

インドネシアのマングローブ林
450万haから250万haへ減少 ⇒ 一因にエビ養殖池の乱開発がある
沿岸地域の修復・再生、住民の安定的な所得の確保、地球温暖化対策等



インドネシア海洋水産省直轄の水産学校と共同で進める試験プロジェクト



約2年となるフタバナヒルギ(Rhizophora apiculata)とオオバヒルギ(Rhizophora mucronata)